

子どもたちの生命と未来を守る緊急アピール

学校という生命の大切さを学び合う場で、しかも教員の心無い言葉によって、子どもたちのいじめを誘発し、結果として一人の子どもを死に追いやったと伝えられています。これが、事実だとすれば、断じて許されないことです。

われわれ教員は、夢や希望に満ちあふれ、今まさに大きく羽ばたこうとしているかけがえのない子どもたちの成長を見守り、ともに歩いていくという重要な役割を担っています。わたくしたちは、この事態を重大な問題として受け止めなければなりません。

現在、高度情報化や都市化の進展、少子化の進行など社会が大きく変化する中で、家庭でも、コンピュータ、携帯電話などの普及のために、子どもたちどうしの結びつきが見えにくくなっている状況が広がっています。また、人間関係の希薄化や自然・社会体験の不足などから子どもたちが心豊かに生活を送ることができなくなっていることが、大きな社会問題としてクローズアップされています。

このような、子どもたちを取り巻く状況を克服するためには、「わたくしたちは、子どもたち一人ひとりの個性を理解し、大切にしてきたのだろうか」という視点に立って、教育内容や学校のあり方、家庭や地域とのネットワークのあり方について、常に問い続け、見直していくことが必要です。

今、各学校・家庭・地域において、三者が手を携えた地域ぐるみの教育活動の根が広がりつつあります。また、学校現場においても、子どもたち一人ひとりを大切にしたい、ゆとりあるきめ細かな教育をめざして日々努力がなされています。

わたくしたちは、これらの取り組みをさらに充実させ、保護者や地域に「ひらかれた学校」づくりをしていくとともに、子どもたちが安心して学び合える場をつくり上げていかなければなりません。子どもたちにとって、未来へのとびらであるはずの学校という場が、未来を閉ざしてしまう場となるようなことは、絶対にあってはならないのです。

未来を担う子どもたちに将来への夢と希望を育むために、社会全体で人権を意識し、いじめや差別をなくしていくこと、また、一人ひとりを大切にできる温かさを大人が取り戻すことが必要です。そのことは、わたくしたち大人の責務なのです。

愛教組は、子どもたちが「自分は大切な存在として認められている」「信頼されている」と実感でき、いきいきと活動できる学校や社会の実現をめざして取り組んでいきます。

2006年10月21日
愛知県教員組合